

## 令和5年度 学校総合評価

### 1 今年度の重点課題に対する総合評価

「学習活動」「農業教育の充実」「自己責任を考える」「寮生会活動の活性化」「進路支援」の5つの重点項目を掲げて学校アクションプランを設定した。

「学習活動」では、問題のレベルを上げたため目標には到達できなかったが、学習への取り組みがよくなった。また、タブレットを用いた授業は、黒板との併用を望む声が生徒から聞かれた。評価は「B：ほぼ達成」とした。

「農業教育の充実」では、日本農業技術検定合格に向けて学習意識が高くなったが、達成目標をクリアすることができなかったため、評価は「C：現状維持」とした。

「自己責任を考える」では、あいさつ運動が継続的かつ自発的に行われた。また、時間をしっかりと管理しようとする意識の向上が見られたため、評価は「A：達成した」とした。

「寮生会活動の活性化」では、役員会および集会は、目標通り取り組めたが、自治組織である寮生会の自発的な開催ではなかったことから、評価は「B：ほぼ達成」とした。

「進路支援」では、インターンシップについては、例年より体験者の割合が少なかった。また、進路選択については、慎重かつ堅実な選択が目立ち、4年制大学への進学は少なかった。評価を「B：ほぼ達成」とした。

### 2 次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からは、アクションプランを含め、学校教育目標に向かう本校教員の取り組みや本校の事業や事業の内容を数多くマスコミへ発信していることについて、好意的な評価と期待をいただいた。近年、生徒数の減少が大きな課題となっているため、今後、さらに中学生やその保護者に対して、これからの農業の可能性とともに農業教育の魅力を発信していきたい。

また、農業経営者育成高等学校の課題として、農業への進路選択に対して、生徒と保護者との考え方にギャップが生じていることがあげられる。各機関とも連携を図りながら、保護者に対しても職業としての農業に理解を深めていただくよう対策を講じていかなければならない。

今後も生徒の実態に応じた改善をし続けながら、農業教育の活性化と充実発展、担い手の輩出、地域社会の持続的な発展に貢献できる職業人の育成という本校の使命を果たすため、教育活動の一層の充実を図ってまいりたい。

### 3 学校アクションプラン

令和5年度 中央農業高等学校アクションプラン - 1 -																						
重点項目	学習活動																					
重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上	タブレットを活用した授業の取り組み																				
現 状	<p>生徒たちの学力差が大きく、より生徒の実態に応じた指導が大切であると考えている。</p> <p>生徒の学習状況を調査すると、予習復習等の自学自習は行っていない、学習方法がわからない、と回答した生徒が多かった。自学自習を習慣化させ、学力の向上を図る必要があると考える。</p>	<p>タブレットを用いた授業が多く実施されるようになり、生徒たちは操作等に抵抗なく取り組んでいる。昨年度末のアンケート調査では、「タブレットを用いた授業はわかりやすい」と回答した生徒が大半であった。今年度も継続して生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるタブレットの適切な活用法を推進していかなければならない。</p>																				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・躍進賞獲得（2回目が20点以上成績がアップした）・・・学年30%以上</li> <li>・優秀賞獲得（ポイント30点以上）・・・学年50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを適切に活用ができる・・・100%</li> </ul>																				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイント制の継続 課題の提出状況、得点の伸長状況、自学自主の取り組み状況によりポイントを付与し、可視化する。</li> <li>・自学自習の取り組み 自学自習ノートの配布</li> <li>・学び直しの科目「中農チャレンジ」の見直しと他教科との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎にアンケートを実施し、きちんとした取り組みができていない生徒に活用法を指導する。</li> <li>・必要に応じ、「農業と情報」の授業と連携をとりながら指導していく。</li> <li>・互見授業を行い、教員間でタブレットの効果的な活用法を共有する。</li> </ul>																				
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・躍進賞獲得 1年・・・6.7%</li> <li>2年・・・6.8% (R4 12.4%)</li> <li>3年は4月1回のみとなるため、対象外</li> <li>・優秀賞獲得予定（1月31日現在） 1年・・・20.0%</li> <li>2年・・・31.8% (R4 21.7%)</li> <li>3年・・・22.2% (R4 21.6%)</li> </ul> <p>優秀賞については、学年末考査が行われる2月末までが対象となるため、現時点で受賞が確定しているのは上記の通りである。30点に近い生徒が多くいるため、引き続き学年末考査に向けて呼びかけを行う。</p>	<p>タブレットに関するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを活用している。100%</li> <li>・タブレットを使用した授業</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分かりやすい</th> <th>ふつう</th> <th>分かりにくい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>58.2%</td> <td>41.7%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時間や放課後にタブレットを活用について</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ある</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.4%(R4 77.3%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット活用のルール厳守について</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>守っている</th> <th>だいたい守っている</th> <th>守っていない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>36.8% (77.3%)</td> <td>60.2% (52.5%)</td> <td>2.9% (3.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットは学習に必要である</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>必要</th> <th>あまり必要でない</th> <th>必要でない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>82.5%</td> <td>14.6%</td> <td>2.9%</td> </tr> </tbody> </table>	分かりやすい	ふつう	分かりにくい	58.2%	41.7%	0.0%	ある	85.4%(R4 77.3%)	守っている	だいたい守っている	守っていない	36.8% (77.3%)	60.2% (52.5%)	2.9% (3.4%)	必要	あまり必要でない	必要でない	82.5%	14.6%	2.9%
分かりやすい	ふつう	分かりにくい																				
58.2%	41.7%	0.0%																				
ある																						
85.4%(R4 77.3%)																						
守っている	だいたい守っている	守っていない																				
36.8% (77.3%)	60.2% (52.5%)	2.9% (3.4%)																				
必要	あまり必要でない	必要でない																				
82.5%	14.6%	2.9%																				

重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上	タブレットを活用した授業の取り組み
<p>具体的な 取り組み 状況</p>	<p>4月上旬 One-Week トライアル回収・返却 第1回学びの基礎力診断テスト 自学自習ノートの配布、勉強法の説明 5月下旬 結果到着 6月 担任より生徒面談によるフィードバック 7月 課題：One-Week トライアル配布 9月 One-Week トライアル回収・返却 第2回学びの基礎力診断テスト (1・2年のみ実施) 10月 結果到着 11月 担任より生徒面談によるフィードバック 12月 学習の見直し 3月 表彰</p>	<p>4月 1年生タブレット活用ガイド ダンス 6・11月 互見授業 教員間でタブレットを活用 した授業を見合う。 1月 アンケートの実施</p>
<p>評 価</p>	<p><b>B</b></p>	<p>【学習習慣の確立と学習意欲の向上】 昨年度に比べ、躍進賞の受賞者が減っている。その原因としてレベルを上げたことが考えられる。また、考査と異なり、成績に関係ないため、学習への取り組みの甘さがみられる生徒がいる。 優秀賞を獲得した生徒は昨年度に比べ増えている。自学自習ノート等を利用し、目標をもって学習に取り組む生徒は増えている。 【タブレット活用した授業の取り組み】 大半の生徒がタブレットの必要性を感じている。学習内容等に応じ、タブレット・黒板を上手に用いた分かりやすい授業を生徒は望んでいる。</p>
<p>〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった</p>		
<p>学校評議員の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の方法がわからなく、予習・復習ができない生徒がいるのではないか。</li> <li>・普通教育のレベルを上げることで、農業に興味がなくても入学し、そこに農業があるという道筋をつくること大切ではないか。</li> </ul>	
<p>次年度へ 向けての 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を定着させるための「学び直しの授業」の見直しについて</li> <li>・成績上位生徒の学力の向上について</li> <li>・タブレットを有効的に活用した授業の取り組みについて</li> <li>・(教務部として)魅力ある中央農業高校をアピールするための行事等の取り組みについて</li> </ul>	

令和5年度 中央農業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	農業教育の充実（個々の能力を最大限に伸ばす） 進路支援	
重点課題	「資格取得と客観的評価」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」	
現 状	昨年、資格習得に対する具体的目標を示したが、指導体制や各職員、各学年の資格習得に対する意識が統一されていなかった。このことにより、日頃の農業教育による学習効果が十分に発揮されていなかった。	
達成目標	(1) 1学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 20%以上 2学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 30%以上 3学年「日本農業技術検定3級合格」 学年取得率 40%以上 「同上2級」 学年合格者 3名以上 (2) 生徒が1年間で1つ以上の検定合格や資格を取得する。取得割合60% (3) アグリマイスター顕彰制度 による認定者数 プラチナ3名、ゴールド3名、シルバー3名以上 (4) とやま高校生マイスター認定者の輩出 各コース1名以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検定の実施日、補習日程については保護者・生徒に連絡する。</li> <li>各種検定の指導体制については事前に校内資格習得推進会議・農業科会議で検討する。</li> <li>各種検定取得のメリットを理解させ、より多くの検定受検に挑戦するようにクラス担任、生徒に意識的に働きかける。</li> </ul>	
達成度	別紙1 農業科資格	
具体的な取り組み状況	4月当初に日本農業技術検定担当者を決め、補習計画を綿密に作成し実行しました。ただ、放課後補習に際しては学校行事や部活動の指導により教員の対応が困難な面が散見された。そのような場合には、授業内で対策プリント学習を取り入れるなどの工夫をした。また、来年度以降に資格習得のための学習時間を朝学習、寮の学習時間の中で実施することや、特定の授業の中で計画的に取り入れることなど、様々な課題があるが引き続き検討したい。	
評 価	C	結果的には達成目標をクリアすることはできなかったが、日本農業技術検定合格に向けて学習意識が高くなった。
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった		
学校評議員の意見	様々な問題があるが、生徒一人ひとりの能力を高めるためにも今後も資格習得に取り組んでいただきたい。	
次年度へ向けての課題	生徒の自己肯定感、達成感を高めるとともに、農業科教師一人ひとりの能力を高めるためにも今後とも資格習得指導に取り組んでいきたい。	

## 農業科主要資格取得者一覧

項目		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
とやまマイスター		—		1名(環緑1)		1名(園福1)	
アグリ マイスター	プラチナ	2名(作物1、動物1)				1名(園福1)	
	ゴールド			1名(環緑1)			
	シルバー	2名(園福1、生工1)		2名(生工1)		3名(作物1)(環緑1) (園福1)	
日本農業 技術検定	2級	2名(作物1) (動物1)	15%	2名(環緑2)	19%	2名(動物1) (環緑1)	30%
	3級	20名/135名	15%	24名/124名	19%	33名/110名	30%
		1年 2名/38名	5%	1年 5名/46名	11%	1年 6名/30名	20%
		2年 7名/41名	17%	2年 8名/37名	22%	2年 18名/44名	41%
		3年 11名/56名	20%	3年 11名/41名	27%	3年 9名/36名	25%

( ) 内専攻者内訳

作物：作物専攻  
環緑：環境緑化専攻

動物：動物専攻  
生工：生物学専攻

園福：園芸福祉専攻

重点項目	自己責任を考える	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法改正による18歳成人引き下げに伴い、生徒自らが自己の行動に責任を持つことができる。（自己責任）</li> <li>・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できる。（時間の管理）</li> <li>・登下校時において交通事故の危険を回避することができる。（命の尊さを考える）</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね学校ルールを遵守できている。自分自身の行動の一つ一つの結果までを考えるまでには至っていない。</li> <li>・学校生活3か条は、過去の取り組みから、年々意識向上している。今年度もこれらを定着させるために、粘り強い指導を継続する。</li> <li>・交通安全への意識は十分とはいえないため、継続的に指導する。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己責任について考えることができる。</li> <li>・時間管理がしっかりできる [達成目標]：生徒へのアンケートにおいて達成できた90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己責任について考えることができる。</li> <li>・時間管理がしっかりできる [達成目標]：生徒へのアンケートにおいて達成できた90%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの実施</li> <li>・各学期の始業式と終業式および、大型連休前に校則の遵守指導を実施</li> <li>・生徒会執行部と希望者による平日8:00～8:20に寮から本館の渡り廊下付近にて「あいさつ運動」を通年実施</li> <li>・生徒会執行部を中心に時間管理や自己責任の啓蒙活動を実施。</li> <li>・HR会長、風紀委員を中心に生徒への呼びかけを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室において意識調査の実施</li> <li>・全体への指導：各学期の始業式と終業式および大型連休前に交通安全指導を実施する</li> <li>・交通安全街頭指導の継続 (中農坂～福沢地内)</li> <li>・校地内(中農坂～T字路まで)の自転車運転の禁止と安全点検の徹底</li> </ul>
具体的な取り組み状況	<p>「信頼される中農生」意識向上(時間の管理)(自己責任)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを実施し意識を高めた。</li> <li>・ノーチャイムキャンペーンの実施</li> <li>・集会等での意識向上の啓蒙</li> </ul> <p>交通事故の危険回避(命の尊さを考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室の実施、集会等で交通安全の啓蒙、通学生への指導</li> </ul>	
評 価	<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守る意識向上は高まった。</li> <li>・あいさつ運動は、継続的かつ自発的に行われていた。</li> </ul>
<p>〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった</p>		
学校評議員の意見	特になし	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人年齢の引き下げにより、在学中に成人する生徒が出てくる中、自己責任についての自覚を引き続き啓蒙していく。</li> <li>・「交通安全意識」(命の尊さの自覚)について、通年の指導に加え生徒会執行部が中心となり企画・提案していくよう指導する。</li> <li>・「時間管理」について継続して指導する。</li> <li>・タブレットの正しい使用について啓蒙していく。</li> </ul>	

重点項目	寮生会活動の活性化について	
重点課題	寮生会が主体となって、寮生の安心と安全を保障し、且つ充実した生活を送れるような、寮運営を進めていきたい。そのための意識の涵養を目指すものである。	
現 状	<p>現在、寮生会の諸活動および、寮内のルールは、主に教員が中心となって計画・運用されている。寮生の自治組織である寮生会が主体となって、行事の計画、立案及び運営していく体制を整えるとともに、自らルールを設定し、全寮生へ周知、徹底を図ることを目標とした、寮生会運営を望むところである。以上のことから、下記の通り、対策を講じていきたい。</p> <p><b>対策1</b> 『寮生会役員会について』</p> <p>定期的な役員会を設定し、諸行事と規則についての話し合いの場を設ける。話し合われた内容をまとめ、寮生への周知の仕方等について検討させる。</p> <p><b>対策2</b> 『寮生集会について』</p> <p>学期に1度程度の集会を設け、役員会で諮った内容を周知させるとともに、組織的な運営の仕方について、学ぶ機会とする。</p>	
達成目標	<p>①月1回の寮生会役員会の実施と毎週月曜の夜に寮生集会を実施できる。</p> <p>②寮生が主体となって行事等を企画、立案、運営することができる。</p>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生会顧問および寮務部職員が中心となって指導し、活動を具体化させる。</li> <li>・寮生全員が協力し、寮運営が進められるよう奮起を促す。</li> </ul>	
達 成 度	<p>①月1回の役員会、月曜ではなかったが毎週寮生集会が開催できた。</p> <p>②寮祭、映写会等の企画、立案、運営が寮生主体の下、実施できた。</p>	
具体的な取り組み状況	<p>寮生会役員会の取り組みは、寮生諸行事の企画、立案、運営に関する内容であり、寮生による主体的な行事の運営に一定の成果があった。</p> <p>毎週の寮生集会は、実施できたが、内容が寮生活についてのルールやマナーに関する注意喚起が主であり、寮生会運営に関するものが実施できなかった。</p>	
評 価	<b>B</b>	役員会および集会は、目標通り取り組めたが、教職員による働きかけによる開催がほとんどであった。生徒役員が自発的に開催する雰囲気づくりや、自治組織である寮生会が、自ら寮風を高めていこうとする意識づけが今後の課題であるとする。
(評価基準) A：達成した    B：ほぼ達成した    C：現状維持    D：現状より悪くなった		
学校評議員の意見	<p>・寮生会の役員選出について質問があり、選挙で会長を決め、会長が委員を選出していると回答した。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>自治組織である寮生会が、自ら規則を考え、ルールを守るための雰囲気づくりを作り上げるための取り組みを工夫したい。また、寮生会役員が、リーダーとして寮生の模範となり、寮生が生活しやすいように運営できるための支援指導をさらに進めていきたい。</p>	

重点項目	進路支援				
重点課題	進路先の確保、インターンシップ体験率の向上				
現 状	<p>本校は農業をはじめ多様な分野へ就職または進学をしている。そのため生徒自身が各自の適性を理解するとともに進路意識を高めることによる適切な進路決定を目指し、主として2年生の夏季休業中にインターンシップを実施している。未体験者についてはその後の長期休業中での実施を勧めているが、3年生での実施は難しい場合が多いため、できるだけ2年生で体験することが望ましい。</p> <p>また生徒の希望に沿った進路先を確保するためにも、前年度生徒の就職先を中心に企業訪問を行い、相互の情報交換に努めている。</p> <p>・ 過去3年間のインターンシップ実施状況 (※数字は各年度2月調査のもの、分母は在籍数)</p>				
	第2学年までの体験者数	R元年度 33/48人 (69%)	R2年度 46/57人 (81%)	R3年度 34/41人 (82%)	R4年度 24/37人 (65%)
	↓	↓	↓	↓	↓
第3学年までの体験者数	R2年度 38/47人 (81%)	R3年度 47/47人 (83%)	R4年度 34/41人 (88%)	R5年度 30/36人 (83%)	
達成目標	3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率90%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が就職を希望している企業等への訪問を早期（5月頃）に行う。</li> <li>・ 進学希望者の個別受験指導について早めに計画を進めていく。</li> <li>・ インターンシップについては、各生徒の担当者を明確にし、積極的に体験できるようにはたらきかける。</li> </ul>				
達成度	(2月2日現在) 3年生の進路先決定率97.2%、2年生のインターンシップ体験率93.0%				
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度の就職先及び3年生の就職希望企業に5月下旬から6月上旬にかけて訪問し、7月には県農林水産公社に来校を依頼し、就農奨励のための説明会を催した。</li> <li>・ 進学希望者（特に大学・短大）の個別受験指導については、全校規模で支援体制を構築し、8月中に担当者を決定した。</li> <li>・ 保護者懇談会を利用して、ハローワークや県内企業との面談の機会を設け、併せて進学資料の頒布会も実施した。</li> </ul>				
評 価	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度とは異なり、慎重かつ堅実な進路選択が目立ち、4年制大学への進学は少なかった。</li> <li>・ 就職希望者は全体の3分の2を占め、83%が最初の応募先に内定した。</li> </ul>			
〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった					
学校評議員の意見	<p>直ちに就農へと結びつかなくても、いろいろな角度から農業に興味・関心をもつことができるようにして欲しい。</p> <p>日本農業の将来性（高品質な生産・SDGsの観点からの人と自然との共存など）に注目してもらいたい。</p>				
次年度へ向けての課題	<p>卒業後に直ちに就農することのみを目標にせず、進学も含めて、農業の知識を活かして、現代社会のニーズに応える進路を幅広く選択できるように支援する。そのためには普通科目の学習においても基礎的な学力の育成は必要になるため、教科の学習支援と連携した進路支援体制を構築する必要がある。</p>				